



ICHIKAWA H.S

NEWSLETTER

AGENCYの育成を
目指す緑学年通信

VOL.26
23 JAN, 2026

人生100年時代！生涯学ぼう！

1月も残すところあと1週間となりました。生活科学科は、明日24日も学科発表会のため登校が続きます。来週からは福祉科で、初めての2週間にわたる実習が始まります。普通科では、1年生最後の定期考査を控えていますね。また、2月に入ると普通科は海外研修へ出発します。どのような成長を遂げて帰ってくるのか、今からとても楽しみです。

2月は、学校全体からお知らせしている通り、附属中学校や高校の入試に伴う臨時休業日が多く、登校日は13日程度となります。その一方で、月末にはABルームの定期考査が予定されています。一般受験をしない場合、就職・進学において最も重要なものの一つが成績です。学生のうちからコツコツ努力できる人は、大人になってからも同じように努力を積み重ねることができます。ぜひ、日々の学習を大切にしてほしいと思います。

さて、冬休みが明けて3週間が過ぎましたが、ここで冬休み中に読んだ本を一冊紹介します。みなさんは「キーエンス」という会社を知っていますか。『キーエンス流 性弱説経営一人は善でも悪でもなく弱いものだと考えてみる一』を読みました。キーエンスは、工場の自動化を支えるセンサーや測定機器を開発・販売する日本を代表する企



体育のサッカー メニューを自分たちで考えます

3 A 松花堂弁当 3年間の集大成！うまし！



業で、平均年収は1,500万円を超えるとも言われています。キーエンスが高い成果を上げている理由としては、報告書を1分単位で毎日提出する徹底した時間管理や、業界初の商品を次々と生み出してきた点などがよく挙げられます。しかし、この本で中心的に語られているのは「性弱説」という考え方です。キーエンスでは、「人は基本的に弱い存在である」という前提に立ち、努力や根性に頼るのではなく、誰でも成果を出しやすくなる仕組みづくりを徹底しています。例えば営業のロールプレイでは、上司の関わりは業務の「実行前」に集中します。上司は部下が最高のパフォーマンスを発揮できるよう、シナリオの検討からロールプレイングまで、あらゆる準備を共に行います。また、トラブルが起きた際にも、「個人の能力や意識の問題」で片づけるのではなく、「その失敗を生んだ仕組みのどこに課題があったのか」を徹底的に議論する姿勢が、具体例とともに紹介されています。

人は、やるべきことが分かっても後回しにしたり、迷ったり、楽な方に流れてしまったりするものです。これは大人も同じで、高校生にとってはなおさら自然なことだと思います。だからこそ、「意志の強さ」だけで評価するのではなく、「どうすれば行動しやすくなるか」を考えることが大切なのだと感じました。興味をもった人は、ぜひ読んでみてください。